

点検・評価項目（大項目）	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果の理由	改善・向上に向けた計画	その他特記事項	分析項目に係る根拠資料・データ	備考
「滋賀大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実際状況が適切な水準であること	教育プログラムの実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実際状況が数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱及び同細目で定められた水準を満たすこと（リテラシーレベル）	・教育プログラムの履修・修得状況、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認する	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	○	令和3年度の「データサイエンス入門」及び「データサイエンス・A1への招待」について履修者数、修了者数が適切であることを確認した。教育学部・経済学部では計画を上回っている。また、データサイエンス学部では全学部生が履修している。履修率向上に向けた計画と照らし、順調に進捗している。	令和3年度に策定した履修率向上に向けた計画を着実に実行する。		A-①-1_【リテラシーレベル】令和3年度数理・DS・AI認定制度対象科目開講・履修状況 A-①-2_【リテラシーレベル】数理・DS・AI認定制度申請書（抜粋）のうち、以下の内容 ・プログラムの履修者数等の実績について（申請書様式3） ・教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について（申請書様式5） ・自己点検・評価について（申請書様式6）	
		・シラバスとモデルカリキュラムの対応を確認する。	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	△	令和2年度シラバスを確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件であるモデルカリキュラムの5つの審査項目との対応関係があると認められる。ただし、プログラム規程等が整備されていないため、全学的に検討することが望ましい。	引き続きモデルカリキュラムとの対応を意識しながら教育内容を充実させる。プログラム規程の整備を進める。	規程についてはすでに検討に着手しており、令和4年度中に制定予定である。	A-②-1_令和3年度「データサイエンス入門」及び「データサイエンス・A1への招待」のシラバス（計4点） A-②-2_【リテラシーレベル】数理・DS・AI認定制度申請書（抜粋）のうち、以下の内容 ・プログラムの授業内容・概要（申請書様式4-1及び4-2）	
		・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度を確認する。また、教育プログラムの学修成果や他の学生の推奨度について確認する。	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	○	令和3年度開講の「データサイエンス入門」及び「データサイエンスへの招待（計3クラス）」の授業評価アンケート結果では、「授業はよく理解できた」、「授業には総合的に満足である」の質問に対して5段階評価で「強く思う」、「そう思う」との肯定的回答が6割〜7割程度を占め、一定の評価を得ていることを確認した。	引き続き、学生アンケートに加え、多様な手段で学修成果や他の学生への推奨度を確認し、学生の理解度を向上させる。		A-③-1_令和3年度授業評価アンケート分析（リテラシー科目） A-①-2_【リテラシーレベル】数理・DS・AI認定制度申請書（抜粋）のうち、以下の内容 ・自己点検・評価について（申請書様式6）	
		・教育プログラムの修了者の進路・活躍状況、産業界等外部からの評価を確認する。	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	△				本プログラムは令和2年度から開始し、令和3年度については修了者がまだ卒業していない。そのため、具体的な進路・活躍状況等の確認については実施していない。	

○…「点検・評価項目」とその「分析手順」の内容を満たしている

△…「点検・評価項目」とその「分析手順」の内容を満たしているものの、改善の余地がある。

×…達成できていない

点検・評価項目（大項目）	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果の理由	改善・向上に向けた計画	その他特記事項	分析項目に係る根拠資料・データ	備考
「滋賀大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況が適切な水準であること	教育プログラムの実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況が数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱及び同細目で定められた水準を満たすこと（応用基礎レベル）	・教育プログラムの履修・修得状況、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認する	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	○	令和3年度の各学部の実用基礎レベル対象科目について、履修者数を確認した。学部によって履修者数に差が大きい。すべての学部学生が履修しており、履修率向上に向けた計画との関係で許容範囲内であることを確認した。なお、全学部とも標準としては3年間で修了するプログラムのため、修了者は少ない。	令和4年度に策定した履修率向上に向けた計画を着実に実行する。	履修率向上に向けた計画は令和4年度に設定したため、その進捗状況は次年度以降に確認・検証を行う。	B-①-1_【応用基礎レベル】令和3年度数理・DS・AI認定制度対象科目開講・履修状況 B-①-2_【応用基礎レベル】数理・DS・AI認定制度申請書（各学部）のうち、以下の内容 ・履修者等数の実績（申請書様式3） ・教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画（申請書様式4） ・自己点検・評価（申請書様式5）	
		・シラバスとモデルカリキュラムの対応を確認する。	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	○	令和3年度シラバスを確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件である3つの基本的要素について、モデルカリキュラムとの対応関係があると認められた。	引き続きモデルカリキュラムとの対応を意識しながら教育内容を充実させる。		B-②-1_令和3年度応用基礎レベル科目シラバス B-②-2_令和3年度応用基礎レベルカリキュラムツリー（各学部） B-②-3_令和3年度応用基礎レベル授業科目表（各学部） B-①-2_【応用基礎レベル】数理・DS・AI認定制度申請書（抜粋）のうち、以下の内容 ・プログラムを構成する授業科目（様式2）	
		・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度を確認する。また、教育プログラムの学修成果や他の学生の推奨度について確認する。	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	○	令和3年度開講の各学部の実用基礎レベル対象科目について授業評価アンケート結果を確認した。授業評価アンケート結果では、全体の3分の2以上の科目で「授業はよく理解できた」「内容に興味があり、さらに勉強したい」「授業には総合的に満足である」といった質問に対し肯定的回答が6割以上を占めた。学生からのコメントもをふまえ、学生からの評価を得ていることを確認した。	引き続き、学生アンケートに加え、多様な手段で学修成果や他の学生への推奨度を確認し、学生の理解度を向上させる。		B-③-1_令和3年度授業評価アンケート分析（応用基礎科目） B-①-2_【応用基礎レベル】数理・DS・AI認定制度申請書（各学部）のうち、以下の内容 ・自己点検・評価（申請書様式5）	
		・教育プログラムの修了者の進路・活躍状況、産業界等外部からの評価を確認する。	数理・データサイエンス・AI教育推進部会	△				本プログラムは令和3年度から開始し、令和4年度については修了者がでていない。そのため、具体的な進路・活躍状況等の確認については実施していない。	

○…「点検・評価項目」とその「分析手順」の内容を満たしている

△…「点検・評価項目」とその「分析手順」の内容を満たしているものの、改善の余地がある。

×…達成できていない